

令和5年度第1回多摩市一般介護予防事業評価委員会 <要点録>

日時：令和5年7月27日（木）午後1時～3時

出席者：6名

傍聴者：なし

1 開会

- ・ 高齢支援課長挨拶
- ・ 委員長、副委員長の選出

2 報告

(1) 令和4年度介護予防・日常生活支援総合事業実績及び令和5年度目標

(資料5に沿って説明)

(意見) 介護予防リーダー養成講座は、周知不足で受講者が少なかったのか？マンパワーは必要なので引き続き、支援をお願いしたい。

(回答) 10年間養成を続けており、高齢者でも就労中の人が増えている等の社会情勢の影響が要因と思われる。今年度は、配布方法・場所に工夫して周知していく。

(意見) 生活サポーターも受講者を集めるのに苦慮している。今回は広報だけでなくポスティングを活用したところ手ごたえがあった。多方面での周知が必要。

(意見) 元気塾の主観的健康観が下がったのはなぜか。

(回答) 元気塾3か所とも軽度認知症やうつ傾向の方の利用が増えた。また期間限定のサービスのため、終わることへの不安があった。軽度認知症の方のつなぎ先や終了後フォローは相談しながら進めている。

(2) 令和5年度TAMAフレイル予防プロジェクト実施計画 (資料6に沿って説明)

- ・ 来る人を待つだけでなくサービス付き高齢者向け住宅に出向くことも予定している。

(意見) 良い活動と思う。クリニックでも周知する必要があると協力する。

(3) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業の取り組み状況について

(資料7-1, 7-2に沿って説明)

(意見) 低栄養と歯科は関係が深いので、保健所では歯科担当などとも一緒に取り組んでいきたい。

(意見) 要介護認定の半数は、筋骨格系疾患が多い。早めの運動サポートが必要。

(4) 令和5年度健康づくり推進事業について【健康推進課】(資料8に沿って説明)

(意見) 参加者の中で手伝いから担い手になる人を探す取り組みが必要。全体的に担い手不足。

(5) 高齢者の外出促進(実証実験の結果報告)について (資料9に沿って説明)

(6) 高齢者のデジタルデバイド対策について (資料10に沿って説明)

(意見) 高齢者はガラケーの方に慣れている。後期高齢者がスマホに慣れて使っていけるか課題である。

(7) 多摩市高齢者実態調査速報値について (資料11に沿って説明)

(意見) 包括の認知度が低い。高齢者は困った時はじめて包括に来る。困る前から包括を知ってほしい。回答者は元気で若い人が多かった可能性がある。

(意見) 何かあったときに相談できる人がいないが半数以上。保健所として何か役に立てるか。ソーシャルサポートへの取り組みがあるとさらによい。

(意見) デジタルデバイドは、アプリの利用や決済までできるのか。ツールを使う場面はコロナを機に加速した。利用できれば生活の質の向上につながる。

(意見) スマホを使って移動することはできないが、つながる取り組みができるとうい。

(意見) コロナ禍でもオンラインで通いの場をやっているグループがあった。いろんな使い道がある。

(8) 第8期多摩市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の成果(案)について

(資料12に沿って説明)

- コロナ禍において、TAMA フレイル予防プロジェクトを屋外で実施した。
- 地域介護予防教室は令和5年7月現在18教室となっている。
- 8期計画中に「認知症があってもなくてもほっとできる通いの場」や通所型短期集中予防サービスのリハビリテーション専門職同行訪問による介護予防ケアマネジメント支援を開始。

3 協議

「第9期多摩市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」策定に向けた介護予防事業のあり方」

- 主な課題は担い手不足、介護予防事業の認知度の低さ、認知機能低下した方の受け入れ先等

(意見) 介護予防事業の普及や情報発信は、今後は紙ベースからオンライン。公式LINEの活用方法を検討する必要がある。公式LINEはカテゴリーが高齢者に特化していないがイベント情報は欲しい人に発信できる。LINEの使い方を庁内で検討するとよい。

担い手不足に対しても情報発信が鍵となる。対象者選定の工夫がいる。

以 上